

# 一 般 質 問 通 告 書

上記の件について、下記のとおり質問したいので、会議規則第62条第2項の規定により通告します。

2020年 8月21日  
東村山議長 あて

議席番号 13番  
質問者 山口 みよ

## 記

### 一 コロナ禍から子どもを守るために

コロナ感染の拡大により、学年の締めくくりからスタートまでの突然の長期休校は子どもたちにとって学力だけでなく心にも大きな影響を受けています。

重要な時期に長期休校となり、子どもたちの発達段階に応じて学力だけではなく、成長を促すために上級生と下級生の関係など丁寧にはぐくんでこられたことが急に断ち切られました。このことによって、子どもたちの心や日常生活に受けた不安やストレスなどの影響を聞くと、学校教育の重要性をあらためて感じています。

困難な中、先生たちが一人ひとりの子どもに寄り添い、学力の遅れや心のケアをどうするかとしっかり取り組んでいらっしゃる姿に感謝しています。

しかし、学校現場では、密状態の教室などコロナ対策の遅れや混乱の中、現場の声を聴く間もなく国から出される朝令暮改の一方的な指導に疲弊しているのではないのでしょうか。このような時だからこそ、社会の責任で子どもたちの成長を守ることが必要です。

#### ① 心のケア、学力

1. 子どもたちの心への影響、困りごと等をどのようにして把握しているか、またその内容と対応策をうかがいます。
2. 遅れた授業を取り戻すため、夏休み短縮や土曜日利用など行っているとのことですが、具体的な内容をうかがいます。
3. 子どもたちの学力、心の負担感についてどのように考え、対策を考えているかうかがいます。
4. 学習のサポートや心のケアを充実するために教職員の増員が必要ではないでしょうか。
5. 国は子どもたちの心のケアの充実を図るためスクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーを増員するとしてますが増員する考えはないのでしょうか。
6. 1年間で学ぶべき学習を、2～3年かけてゆっくりと時間をかけ、ゆとりを持つ

た学習が必要と思いますが、お考えをうかがいます。

7. 突然の休校宣言要請、学校行事の中止、代替え行事もまた中止等その都度計画書を作り変える作業も大変な労力だと聞いています。次々と出される一方的な指示により、現場の先生も子どもも保護者の方たちも混乱していると聞いています。

現場の声や当事者である子どもたちの声を聴きながら、一律ではない各学校の要望に応えた、丁寧な対応が必要ではないかと考えますがお考えをうかがいます。

## ② 学校での三密対策

8. 教室での身体的距離の確保についての対策はどのように行われていますか。
9. 少人数学級の要望が全国から出ています。教育委員会としての考えをうかがいます。
10. 窓を開けて換気をするとき、蚊よけのために網戸の設置が必要と考えますが、設置の必要性をうかがいます。  
網戸をつけている学校と設置条件は何かうかがいます。
11. 先生は飛沫防止のためマスクやフェイスシールドを着用しているとうかがいます。先生の負担軽減のためにも、また英語など唇の動きを見せなければいけない授業などでもマスクなしで話せるよう、教壇にシールドを立ててほしいとの要望も聞いています。安全対策は教室や教科によって要求は様々だと思います。現場の声を聴き最適な方法を検討していただきたい。お考えをうかがいます。
12. 職員室の教員の席は三密が守られているのでしょうか。どのような対策が取られているかうかがいます。
13. 各教室にICT環境を整備できれば先生たちは各教室でも仕事ができます。先生たちが教室で仕事をすることは認められるのかうかがいます。  
ICT環境整備はいつ完了するのか、いつから使用できるのかうかがいます。
14. 各学校で何が困っているか、何が不足しているかを現場の先生から聞き取り、調査をしっかりと、クラスターを学校から出さないための努力はどのように行われているかうかがいます。